

より実的な活動スキルを身につけるために

# 岩手県災害派遣福祉チーム員 スキルアップ研修2を開催

岩手県災害派遣福祉チーム  
(岩手DWAAT)

岩手県災害派遣福祉チーム(以下、福祉チーム)は、東日本大震災での福祉専門職の活動の課題等を教訓に、避難所、福祉避難所等災害発生時に要配慮者を受け入れる施設における被災者支援体制の充実を図ることを目的に組織されました。

災害救助法が適用されるような大規模災害が発生し、被災市町村からの要請あるいは福祉チームの派遣の必要性があると県が認めた場合、現地避難所等に派遣され、1チーム4〜6名の編成で、要配慮者の福祉・介護ニーズの把握、応急支援等を実施します。(派遣主体:岩手県災害福祉広域支援推進機構、本部長:岩手県知事、事務局:岩手県社会福祉協議会)  
高齢・障がい・保育等の種別協議

会、社会福祉士・介護福祉士等の専門職能団体、保健・医療・行政等関係機関による26団体で構成され、福祉専門職のうち所定の研修を修了した方がチーム員として登録されます。(令和2年3月末現在304名登録)

また、平時には、研修(登録・スキルアップ)や訓練により、災害時の活動体制の構築に向けて、チーム員の養成を行っています。

### 〈派遣実績〉

平成28年熊本地震災害(熊本県益城町)、平成28年台風第10号大雨等災害(本県岩手町)、平成30年7月豪雨災害(岡山県倉敷市)

### チーム員のスキルアップに向けた研修



感染症対策の講義で実際に防護具の着脱を行う受講者

10月2日から3日間、盛岡市内で「岩手県災害派遣福祉チーム員スキルアップ研修2」が開催され、実際の条件設定及び事例によるチーム員の研修が行われました。

本研修は、スキルアップ研修1及び2の修了者を対象とし、様々な災害において、チーム員としてより確実な支援ができるスキルを身につけることを目的としています。

全国的な新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、今回は、初めに「避難所における感染症対策」として、厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部が作成した動画「宿泊療養における感染対策(非医療従事者向け)」により、防護具(マスク・フェイスシールド・医療用ガウン・手袋)の着脱順番や着脱方法

の説明が行われました。  
続く、東北福祉大学総合福祉学部都築光一教授の講義では、集中豪雨の発生により福祉チームが現地に派遣されるといふ設定で、実際の場面を想定した演習が行われました。

### 災害状況の設定(概要)

台風10号が国内に上陸。県内各地で大雨となり、停電や通行止め、列車の運休が発生。県の災害対策本部が設置され、知事が自衛隊に派遣要請を行った。台風は本県を通過して太平洋に抜け、豪雨により、県内4市3町で避難指示・避難勧告が発令された。

停電、高速道路・国道・県道の通行止め、新幹線・在来線の運休は、時間の経過とともに拡大。A市内の増水していた河川が、堤防の決壊により氾濫。広範囲で家屋の床上浸水が発生し、多数の人的被害が確認された。

岩手県災害福祉広域支援推進機構では、福祉チーム派遣の検討がなされている。

### 演習 先遣隊の派遣

**状況** 災害救助法が適用され、A市内に複数の避難所が設置された。福祉チーム派遣の必要性を確認するため、先遣隊を現地に派遣することとなった。

演習では、詳細な災害状況(仮設定)が時系列で説明された後、先遣隊の役割(福祉チームを派遣すべき避難所の見極めと派遣規模の判断)及び任務に基づき、ファシリテーターと受講者による、A市災害対策本部との打合せ、視察先避難所の選定、避難所での聞き取り、派遣先・規模の判断と事務局への報告など、実際の



避難所での住民代表との打合せ

活動の流れに沿ったシミュレーションが行われました。

講師からは、打合せ時の留意事項や支援の必要性の見極め方など、活動に当たっての重要なポイントが説明されました。

### 〔視察先避難所の選定〕

A市災害対策本部との打合せにより、B・C2地区の被災を把握。B地区の避難所には病院・福祉関係者等の支援が入り、大体概要が把握できていた。C地区は、公民館、体育館、中学校の3か所に被災者が避難し、それぞれ支援の必要性の見極めができていなかった。これにより、C地区内の各避難所の視察を行うこととした。

### 〔支援に入る避難所の見極め〕

C地区の避難所で管理者等に聞き取りを行ったところ、公民館及び体育館は、病院等から支援が入り機能していた。また、福祉的支援の必要な避難者への対応もできていた。一方、中学校への避難者は毎日のように増加し、専門学校から支援が入っているものの限界が来ていた。福祉的支援の必要な避難者への対応の

ニーズが確認されたため、中学校の避難所に福祉チームの派遣が必要であると判断された。

### 演習 チームの派遣

**状況** C地区中学校の避難所に、福祉チーム(チーム員6名)を派遣

研修2日目は、受講者が3つのグループに分かれ、出勤前の打合せから初日の活動終了までのシミュレーションが行われました。

出勤前の打合せでは、メンバーの健康状態や個人携行品を確認した後、チーム内の役割分担、関係機関訪問スケジュールの打合せ及び避難所平面図の作成(詰所・別室(福祉避難室)・相談コーナー設置場所候補の選定)を実施。現地では、初めに避難所管理者等との打合せによりチームの活動及び詰所・別室等の設置許可を得て、活動に際して、自治会長、民生委員等住民代表との打合せが行われました。

演習後半では、活動の役割(夜勤、アセスメント担当等)の分担を行い、1グループが福祉チーム、他の2グループが被災者役となって、「難聴・

視力低下・腰痛等で妻の移動介助が必要な高齢男性」、「母と知的障がいの子・孫の3人家族」といった具体的な設定の下、交互にアセスメント及び相談コーナーのシミュレーションが行われました。

最後に、初日の活動のまとめとして、アセスメント結果等による要配慮者のスクリーニング(搬送・別室確保・要観察・その他何らかの特別な配慮が必要な4つに区分け)を実施し、避難所内の気になることへの対応を考え、チームごとに検討結果を発表しました。



活動のまとめとして発表を行う受講者